

農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

(12) 事業間連携による農業資金の取組み

J Aあさか野（埼玉県）

新規	継続
	○
	(2017年4月)

1 動機（経緯）	次世代を含む農業者の円滑な営農活動を支援するため、事業間の情報共有を強化し、融資業務に対応できるTAC（営農経済渉外）を育成するとともに支店との連携を深める必要があること、および担い手の農業所得向上を図るため資金面でのサポートを行う必要があるためです。
2 概要	<p>農業資金にかかる取組みについては、以下の通りです。</p> <p>1 J A農機ハウスローンW応援キャンペーン・J A独自資金であるJ A農業資金（担い手応援）をPRし、利用度の向上を図っています。</p> <p>(1)設備資金：金利年0.50%、無担保、融資額15百万円まで等。</p> <p>(2)運転資金：金利年0.475%、無担保、融資額 売上高の80%まで等。</p> <p>2 TAC担当者7名が157先の重点推進先を設定して原則毎月1度以上の訪問を義務付けることにより、農業融資のPRによる資金需要の発掘に取り組んでいます。</p> <p>3 全農発行のグリーンレポートを全戸配布して営農情報の提供を行いました。</p> <p>4 TACミーティング・TAC会議に担い手リーダー（融資課長）が毎月参加し、情報の共有化を図っています。</p> <p>5 TACリーダー・融資課職員による支店会議に活動報告を行い情報共有に努めました。</p> <p>6 訪問実績について検証を行い、次回の活動につなげるべく協議・実践しています。</p>
3 成果（効果）	<p>2018年度農業資金実行実績は以下の通りです。</p> <p>1 実行件数：47件</p> <p>2 実行金額：207百万円</p> <p>組合員の営農経営について内容を理解することができるようになり、組合員の抱える問題点、J Aへの要望等について聞き取りができるようになりました。</p> <p>また、認定農業者制度の理解を深めメリットを組合員に伝え、相談できる提案が行えるようになりました。</p>

4 今後の予定	<p>J A独自助成金の創設など更なる農業者支援を検討するとともに、生産緑地法の改正に伴う担い手支援を実施していきます。</p> <p>また、農業資金利用者だけではなく、営農・経営相談まで幅広く相談活動ができるTACの育成を行っていきます。</p>
---------	--